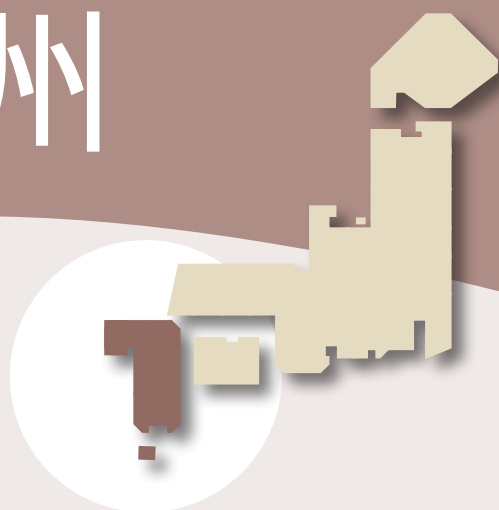


九州



長崎県	増田明子さん		ソフトテニス	62
熊本県	小笠原亨さん		卓球	63
	瀬海幸一さん		ソフトボール	64
宮崎県	愛甲鈴代さん		ゲートボール	65
	駒木省三さん		ボウリング	66



ソフトテニス 「がんばらんば長崎」チーム

ます だ あ き こ

増田 明子 さん

61 歳

● 参加歴：1 回目

病を乗り越え、ソフトテニスで健康人生！

長崎県予選会。決勝戦、とうとうファイナルゲーム。相手のマッチポイント。あと1点で負けるところから、相手のミスで形勢逆転。慎重にボレーを決めて、奇跡の全国大会出場！

夫のすすめで55歳から始めたソフトテニス。もともと運動が好きで、若い頃はバドミントンの選手だったこともあり、大して不安は感じていなかった。しかし、長年の運動不足で足がもつれ転倒すること多発。それを見ていた友人に、「亀がひっくり返ったようだ」と笑われる。倒れるのを止めようと腹筋・背筋に力を入れようとするが、スローモーションのように倒れる始末。自分でもつい笑ってしまった。

一念発起。毎朝出勤前に30分間のミニゲームを3年間続けた。すると、足のもつれもなくなり、仕事の疲労感も激減！ ゲームでいいプレーをするとみんなが褒めてくれることもあり、ソフトテニスの面白さに目覚める。

58歳で子宮がんが見つかった。46歳で乳ガンを克服していたので、今回も負けないという強い気持ちで治療に専念した。術後4カ月で夫とともに出場した全国夫婦大会では、夫の頑張りのもあり、感動の夫婦での初優勝。

その後、仕事に復帰したが、体調が思わしくなく59歳で仕事を辞めた。これまで忙しく働いてきたが、ゆっくりと静養し、少しずつソフトテニスを始めたら、体力も回復し

ていった。元気になると、もっと強くなりたい、試合に勝てるようになりたいという強い欲望が芽生え、いろいろな人からアドバイスをもらい、考えながら自分なりに技術や心を鍛えていった。明るく楽しく過ごすうちに、お陰で以前よりも健康的になった。

「ねんりんピック富山2018」に参加して、たくさんの方のパワーや素晴らしいプレーを見せてもらい、自分なりの成果と課題を見つけることができ、大変有意義だったと思う。健康であればこそ、このような体験ができるのであり、ソフトテニスに誘ってくれた夫に感謝したい。毎日の練習につきあってくださったクラブの皆さんにもお礼を言いたい。そして、生き甲斐をもたせる「ねんりんピック」という全国大会を開催してくださった長寿社会開発センターの皆様にも感謝したい。

次は、夫とミックスダブルスで、もう一度「ねんりんピック」に出るのが目標となった。これからも健康維持のためにソフトテニスを楽しみながら続けていくつもりである。



総合開会式の会場にて。健康に感謝！



チームの面々と。(前列左から2人目)



卓球 「熊本県りんどう」チーム（監督兼選手）

お が さ わ ら と お ろ
小笠原 亨さん 71歳 ●参加歴：4回目

「明るく楽しい人生」の新たなスタートラインに立って

さわやかな5月の風の中、「ねんりんピック富山2018」の熊本県予選（卓球）が始まった。今回の予選出場者は、例年になく全国・九州の中でも屈指といわれる選手が多く、激戦の県内出場枠（男4、女4人）に入ることは至難の予選会となった。

若い頃は卓球や将棋を楽しんでいたが、仕事の都合もあり、30年間まったくスポーツから遠ざかっていた。しかし、超高齢化社会を迎え、自分自身、健康で生きがいのある第三の人生を送ろうと、60歳の定年を機にラージボールに没頭することとなった。

幸い、その予選をクリアし、熊本県代表の座を得た。チームのメンバーが決定すると同時に、毎月2回の合同練習会を開催するなど、団結と所期の目標達成へ向けて始動することとなった。また、ねんりんピック参加チームによる近県大会（熊本、福岡、佐賀）を催し、7チームによる親善試合と交流会（宴席）を行った。

その結果は、熊本県チームが全勝し、その士

気は一層高まることとなった。

11月3日、いよいよ「ねんりんピック富山2018」が開幕した。1万人を越す選手団の見事な入場行進、炬火入場、そして、式典とメインアトラクション。総合運動公園に大歓声が湧き起こった。それは華やかな、しかも郷土色豊かな開会式であった。

北アルプスを望む立山連峰の卓球会場では、熊本県選手団の「落胆と一筋の満足感に近い声」が交錯した。熊本県の結果は以下のとおりである。

- 一次予選リーグ 第2位（残念）
- 北海道3-2熊本県（北海道は準優勝）
- 二次予選リーグ（2位グループで1位）
- 決勝トーナメント（2位グループ優勝）

しかし、ねんりんピックの目的は、健康・長寿を目指した生涯スポーツと地域を超えた交流の輪を広げることとされる。その意味では、①8人全員が2回以上出場し、他県の仲間とラケットを交えたこと。②多くの仲間と再会できたこと。③チームメートと7か月間、練習ができたこと。これが私の収穫であり、これからの人生を変える新たな出発点となった。明るく楽しい余生を送るために。



一次予選リーグで京都市と対戦し、勝利。（左側）



優勝メダルを掲げてVサイン！（後列左から2人目）



ソフトボール 「AS エンゼル古閑出」チーム(選手代表)

せ かいこういち

瀬海幸一さん

65歳

●参加歴：2回目

今も甦る感動 ―優勝、そして心尽くしのおもてなし

11月2日、希望に胸膨らませ熊本駅を出発し、新幹線、在来線乗り継いで石川県片山津温泉で一泊。夕食を兼ねて熊本県選手団の懇親会が催され、選手同士の結束力を高めました。

翌3日、総合開会式が行われる富山県総合運動公園陸上競技場に到着したとき、会場から見える立山連峰山頂部は雪化粧をしており、われわれ熊本県人は驚きと感動を覚えました。入場行進にはスタンドからたくさんの拍手歓声があり、今もその光景を思い出せば感動がよみがえります。

場所を移し、合同開始式に参加。監督の高齢者賞表彰があり、歓迎のアトラクションがありました。全国大会1位・2位と地元のチンドンによる趣のある演奏、越中おわらの唄と踊りなどが披露され、叙情豊かで気品高く、哀相の中に優雅な趣を感じました。

4日、待ちに待った試合です。初戦の相手は千葉市代表の磯辺シニアです。初戦なので少し緊張しているかなと思いましたが、初回到点を取ったことで硬さもほぐれ、勝利することがで

きました。2回戦も同様に初回から点を取り、リラックスして試合ができました。

翌日はベスト16、ベスト8の試合です。対徳島戦は打線が爆発し、大量得点で快勝。準々決勝の相手は優勝候補筆頭の静岡市代表です。初回2点を先取するも、すぐに同点に。動揺してはいけないと思い、ベンチから選手を鼓舞。気合を入れ直したことが、最終回の勝ち越し点へとつながったと思います。

宿へ帰り、明日の準決勝・決勝がこの1年間の集大成であると皆に話し、夕食のときは、他5県のチームから「優勝してこい！」とエールを送られ、大変ありがたく思いました。翌日の試合は雨で中止。4チームの合同優勝となりましたが、チーム全員で勝利の感動に浸りました。

ボランティアスタッフの皆様には大変よくしてもらい、最終日には富山駅でのお見送り、おもてなしに感謝です。富山には観光名所、史跡も多数あります。今回は日程の都合で見学できませんでしたが、プライベートで訪れてみたいと思います。



優勝の感動を胸に刻み、表彰式へ。中央でトロフィーを掲げる瀬海さん。



ゲートボール 「月知梅」チーム(主将)

あいこうすず よ

愛甲鈴代さん

71歳

●参加歴：6回目

やったー、日本一！

やった、やった、とうとう日本一になった。

ねりんピック全国大会に初めて参加したのは、2007年いばらき大会でした。まだ、ゲートボールを始めて3年目の頃でした。高齢になって夫婦で同じ趣味を持ったほうがよいと主人に誘われ、私のほうがはまりました。それから、2009年北海道・札幌大会、2011年くまもと大会、2014年とちぎ大会、2016年ながさき大会、そして昨年とやま大会に出場しました。この間、決勝トーナメントに上がったのは、くまもと大会と今回だけです。なんとか「一度は頂点に立ちたい！」との思いで練習を重ね、「今年は優勝できるのでは？」とチームの皆と話していました。

前年、前々年と九州選手権大会で、若手に混じり第3位になっていましたし、ねりんピック県予選会で3連覇でき、全国大会でもなんとか入賞できるのではと張り切っていました。今回の開催地は富山県の高岡市で、奇しくもわが

「月知梅」チームも宮崎市高岡町が地元。梅の名所の月知梅からチーム名を付けています。

大会2日目、やっと試合が始まりました。各都道府県、政令指定都市の予選を勝ち抜いた142チームの参加です。わが月知梅チームは予選3勝で勝ち上がり、いよいよ決勝トーナメントです。次から次と勝ち上がり休む間もなく試合を続け、6試合して、とうとう優勝できました。決勝トーナメントでは月知梅チームに負けたチーム、同じ宮崎県から参加した2チーム、その他のチームの方々から多数応援していただき励みになりました。感激して抱きついて喜んでくださった島根県の「つのい」チームの方。各試合、一人がミスしても他の4人が助けるといったチームワークのおかげでした。

宿に帰り、夕食の間では対戦した福岡県の方が祝福してくださり、他のチームの方々もお祝いの言葉をかけてくださいました。帰りのバスでは、宮崎県の役員の方、他の競技で参加された方々からもお祝いの言葉をいただき、とても嬉しかったです。

ねりんピック全国大会は全国各地で開催

されます。ゆっくり観光することはできませんが、他県の方々との親睦、地元の方々との交流が魅力です。また県予選会で勝ち上がり、次の全国大会に参加したいと思います。県社協役員の皆様、大変お世話になりました。



表彰式で「全国大会優勝」の喜びをかみしめるチームメート。(左端)



狙いを定めて、日本一へ。



ボウリング

「エメラルド」チーム（監督兼選手）

こまきしょうぞう

駒木省三さん

77歳

●参加歴：2回目

準優勝！ 輝く「エメラルド」の栄冠

東京生まれの私が定年を迎え宮崎へ来て、早14年。宮崎ではクラブに参加し、たくさんの仲間と出会い、3年前に初めてねりんピックながさき大会に吉田さんと仲間4人で参加しました。結果は、頑張りましたが入賞に届かず、悔いがありました。

そして今回、宮崎県予選で2連覇して、全国大会2回目の挑戦に吉田さんとクラブの熊元さん、多嶋田さんの4人で向かうことになりました。長時間の移動後、大会前日のホテルでの宮崎県選手団交流会では、サッカー、健康マージャンの方々と話が弾み、楽しいひとときを過ごすことができました。

総合開会式は暖かな快晴に恵まれ、東京の仲間との元気で久しぶりの再会に話が咲きました。

普段から各大会で名の知られている上手な選手もわかっていたので、個人戦は無欲で楽しもうと思い、ボックス内の東京の仲間とお話をしながら楽しく投げられました。しかし、今ひとつコンディションがつかめないまま3ゲームが

終了。チームメイトも同じく結果が出せずに終わってしまいました。

続いて得意のチーム戦では、前半1～2ゲームで私が出遅れるも吉田さんにカバーしてもらい、3ゲーム目にやっと2人でビッグゲームを打って終了しました。掲示板を見て、よもやの同ピン6位にびっくり。3位以下は混戦となり、そこから多少のプレッシャーとやる気が出て減多にないチャンスだと思い、2人で「よい思い出をつくろう」と約束しました。

翌日、先に終了した熊元さん、多嶋田さんの応援を背にゲームは進行。私の1ゲーム目は出遅れましたが、吉田さんは前日同様に快調。その後、私は調子を取り戻し、2人で盛り上がり終了しました。6位ぐらいには入るかな？と結果発表を待っていると、「準優勝、エメラルド」のアナウンス。思わず吉田さんとハイタッチし、喜びを分かち合いました。久しぶりの全国大会入賞です。吉田さんの頑張りには感謝、感謝、長くペアを組んできた甲斐があり、「エメラルド」が輝いた最高のとやま大会になりました。

これからも生涯スポーツとして、健康に気をつけながらボウリングを楽しめたらと思います。親切丁寧にサポートしていただいた宮崎県社会福祉協議会の皆様、そして、富山県の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



見事「準優勝」。やりきった表情で吉田さんと。



栄光へのストライク！